

## 会話した数だけ 生徒の自信につながる

滋賀県立米原高校では、一風変わった英語の授業を行っている。特に欧米の先生の間で人気を集めている、その名も「Mystery Skype」<sup>ミステリー スカイプ</sup>。無料通話ソフト「Skype」を使って、同校の教室と海外の教室をインターネットでつないだら、授業スタートだ。

「そこはアフリカですか?」「気温は高いですか?」「海に面していますか?」。スクリーンに映し出された海外の生徒たちに、次々と質問を投げ掛ける。実は、お互いにどこの国に住んでいるかを知らされていない生徒同士が、英語で質問しながら相手の国を当てるという授業なのだ。

昨年始まったこの授業は、1学年に40人が在籍する同校普通科の英語コースで行われている。「前任校に勤めていたころ、生物の先生が授業でSkypeを使って、北海道の旭山動物園の職員と生徒を交流させているのを目にし、これなら英語の授業でも実践できそうだと考えたのが全ての始まりです」と英語コース担任の堀尾美央先生は話す。中学生のころ、海外のペンパルとの文通をきっかけに国際交流に興味を持つようになった堀尾先生は、世界の広さを子どもたちに伝えたいと思い、高校の教員になった。しかし、現実は課題やテストの採点に追われ、英語嫌いな生徒相手に悪戦苦闘の日々。そんなとき、Skypeを使った授業に出会ったのだ。

英語が通じる楽しさを生徒に体験してもらいたいと考えた堀尾先生だが、最初は難しさもあったと話す。「1回目の授業は私がかじめ質問文を準備しておきました。生徒たちはそれを小さな声で自信なさそうに質問し、相手が聞き取れないことが何度かありました」。一方、Skypeの相手となったスペインの8歳の子どもは、上手に発音できないときは隣にいる先生に聞き、それを一生懸命に繰り返していた。その姿に触発されたのか、2回目の授業からは積極的にコミュニケーションを取ろうとする生徒が増えていったという。「英語が1回で相手

滋賀県立米原高校の生徒とケニアのナイロビスクールの生徒がSkypeを使って交流した



世界とつながる  
教室

## 教室にしながらできる異文化交流

海外との接点が少ない子どもたちに、英語が通じる楽しさを伝えたい——。滋賀県立米原高校のある一人の先生の思いが、生徒たちのコミュニケーションに対する意識を変化させている。特別なことではなく、どんな学校でも実践できるその取り組みとは。

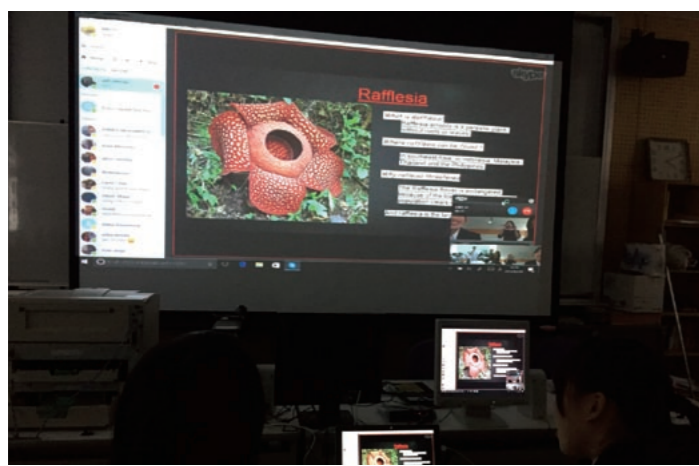
「グローバル教育コンクール2016」のJICA理事長賞を受賞した堀尾先生(左)



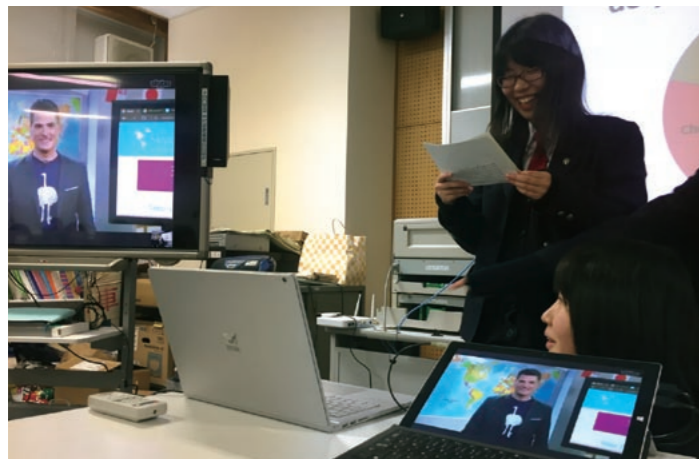
に通じると、生徒にとって大きな自信につながっているようです。英語圏以外の国と交流することが多いので、私は相手の訛りを聞き取って生徒に分かりやすく伝え直したり、別の言葉に言い換えたりと極力サポートに徹し、生徒たち自身が相談し合って答えを導き出せるように心掛けています」

## 英語教育から グローバル教育に発展

授業を通じて、カタール、イスラエル、ナイジェリアなど、普段知り合う機会のない国の生徒との交流が生まれている。また、「Mystery Skype」の他にも、堀尾先生はSkypeを活用した多様なグ



Skypeでマレーシアの学校と森林破壊について意見を交換した。現地の生徒たちが、ボルネオ島について写真を交えて紹介した



堀尾先生が、マイクロソフト社からICT機器を活用した授業を実践している教員として認定されたことを受けて、マイクロソフト社幹部と生徒との特別交流セッションが行われた

ローバル教育を行っている。例えば、ベトナムの高校とは、日本とベトナムの大学入試制度が似ている点に注目し、お互いの国の受験生に役立つような商品やサービスを共同で開発する。というテーマで共同授業を行った。いくつかのチームに分かれた米原高校の生徒たちは、まずベトナムの生徒たちにオンラインでアンケート調査を行い、その結果を分析しながらニーズを探った。そして、クラス内で選出された上位3チームが、実際にSkypeを通じてベトナム側に発表した。

また、マレーシアのボルネオ島にある学校とは、生徒から有志を募り、森林破壊

について意見交換を行った。「英語の教科書で、ボルネオ島ではパーム油を生産するために森林が破壊され、オランウータンのすみかが奪われているという内容の文章を読みました。その文章に、あなたはパーム油の使用をやめるべきだと思いますか?と書かれていたので、実際に現地の生徒たちと議論することにしたのです」と堀尾先生。すると、日本側の生徒は、使用をやめるべき、マレーシア側の生徒は、やめられない」と意見が分かれた。「現地の生徒から、パーム油は料理や燃料など生活に深く根付いていることや、オリブオイルは値段が高くて手軽に買えないことなど、生の声を聞くことができました。教科書で学んだことを立体的に考えたり、固定観念を取り去ったりできる有益な取り組みだと感じました」

このSkypeを活用した教育は、昨年度の「グローバル教育コンクール」で、最優秀賞にあたるJICA理事長賞を受賞した。毎年JICAが主催するこのコンクールでは、グローバル教育を実践する際に活用できる取り組みや写真を表彰している。「本校のように、海外との接点が少ない学校の生徒にも世界とつながる機会をつくりたくて始めた取り組みが認められたのは、本当にうれしいことです。生徒には、言語や文化、考え方の違いを当たり前だと感じ、むしろ歩み寄りながら違いを楽しめる心を育んでもらいたいと思っています」と語る堀尾先生。目指しているのは、教室にいながら、教室の壁を壊すことだ。